

豊橋市自治連合会だより

第8号 発行部数 123,000部

発行 豊橋市自治連合会 平成27年3月27日発行
事務局 市民協働推進課内 TEL 51-2482
<http://www.toyohashijichiren.jp/>

近所の気遣いが地域力に

自治連合会長あいさつ



豊橋市自治連合会
会長 鈴木 佳和

日ごろは、自治会活動に格段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私たちは、これまでの『地域住民とともに築き上げてきた豊かなまちづくりの実績』の一層の積み上げと、自治連合会の基本理念である『自ら考え、自ら治める』を根幹に据えた自治会活動の充実と発展をめざしてまいりました。

しかしながら社会は、グローバル化や情報化が急激に進む一方で、少子高齢化や核家族化が一層すすむなど、大きく変化しています。こうした急激な変化は、価値観の多様化や地域コミュニティの希薄化を生じさせ、自治会活動の担い手や加入率の低下を招いています。

一方、南海トラフによる三連動地震への備えが危惧されています。危機管理体制の強化や地域防災力の強化は、喫緊の課題であります。また、交通安全・防犯・環境整備・道路整備など、安全・安心で住みよいまちづくりのための課題は、山積しています。

特に、本年度は、3年が経過した東日本大震災の被災地（宮城県石巻市、南三陸町）の視察を断行しました。また、市長と市議会議長への要望活動として、①各小学校周辺の通学路のカラー舗装化と道路標示の塗り直し補修、②後期高齢者世帯への防災ラジオの普及をお願いしてきました。

私たちは、『近所の気遣いが地域力に』を行動起点に据え、皆様と一緒に課題解決を目指します。皆様の一層のお力添えをお願い申しあげまして、ごあいさつとさせていただきます。



副会長
太田 昌利



副会長
坂神 信吉



副会長
三井 新太郎



鈴木佳和会長(左) 鳥居春男東三河支部長(右)



平成26年度

定期大会開催

提言「26定期大会」を採択

平成26年6月20日豊橋市公会堂にて、本年度の定期大会が、多数のご来賓によるご臨席のもと、盛大に開催されました。

鈴木自治連合会長は、地域コミュニティの希薄化や超高齢社会の到来により伸び悩む加入率などの課題に触れ、危機管理や地域防災力の強化により住民の安全に取り組み『近所の気遣いが地域力に』を合言葉に地域住民の活動を活発にしていきたいとのあいさつで幕を開けました。永年にわたり校区自治会長（6名）、町自治会長（57名）として活躍された方々へ表彰状が、また、平成25年度で退任された校区自治会長（7名）、町自治会長（82名）へ感謝状が贈呈されました。

続いて、平成25年度の事業報告と決算、平成26年度の事業計画と予算が報告されました。さらに、『ともに生き、ともにつくる』を目指すことが盛り込まれた提言『26定期大会』が採択されました。

提言「26定期大会」

- ① 自治会運営の透明化の推進
- ② 効果的・効率的な自治会活動の推進
- ③ 組織の強化と地域コミュニティの充実

宅建協会と自治会加入促進に関する協定書を締結

平成27年2月2日、豊橋市自治連合会と公益社団法人愛知県宅建物取引業協会東三河支部（以下、宅建協会）は「豊橋市における自治会への加入促進に関する協定書」を締結しました。アパート等の賃貸や管理を行う宅建協会にアパート等へ入居する世帯へ自治会加入啓発チラシ等を活用して自治会への加入を勧めていただきます。今後も地域の繋がりを強化するため自治会加入促進に取り組んでいきます。

市長からの言葉



豊橋市長 佐原 光一
平素は市政の推進にあたり多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、各自治会におか

れましては、高齢化の進展と一人世帯の急増により、人と人のつながりが弱くなり、地域コミュニティの弱体化が急速に進むなか、防災、防犯、交通安全、環境美化などさまざまな活動に地域の力を合わせて安心安全なまちづくりに取り組んでいただいております、その活動に深く敬意を表します。

さて、昨年は、第60回の節目を迎えるということと「ええじゃないか豊橋まつり」をリニューアルし盛大に開催いたしました。自治会の皆様方には、クイーンによるダンス披露や2万人参加の総おどりなど多大なご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。天候にも恵まれ、豊橋力が存分に発揮された最高のお祭りになりました。

この4月は、いよいよ「東三河広域連合」が動き出します。東三河8市町村が一体となって住民サービスの向上を図り、将来にわたって住みよい地域づくりに取り組んでまいります。今後も希望と誇りにあふれる、たくましいまちづくりを進めてまいりますので、市政の重要なパートナーとして、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、豊橋市自治連合会が地域の要となり十二分にその力を発揮され、ますます飛躍されますことを祈念申し上げます。

市長へ要望書提出

平成26年10月7日自治連合会は次の2項目について市長へ要望書を提出しました。

- ① 子どもの交通安全対策について
- ② 後期高齢者への「防災ラジオ」の普及について



左：佐原市長 右：鈴木会長

豊橋市議会との意見交換会

平成26年10月22日自治連合会は、市議会議員他12名、自治連合会執行部7名と意見交換会を開きました。

議長へ提出した要望書のほか、議長へ提出した要望書のほか、運営事業、資源化センターのリニューアル

② 南海トラフ

地震発生時、高齢者や要

介護者等災害時要援護者救助の考え方

③ 議会改革の現状について

でも意見を交わしました。



市議会と意見を交わす自治連合会執行部役員

視察記

● 伊丹市を視察して

伊丹市は、人口19万7千人、面積は豊橋市の10分の1です。人口密度が高く、都市化された比較的に裕福な市といえます。

防災について、伊丹市は20年前に阪神・淡路大震災を経験しています。そのことから教訓として、次のことが重要だとご教示いただきました。

○道路の寸断・津波による浸水等も考えられ、個人による備蓄が基本。家庭内備蓄を高めることが重要。

○防災意識を啓発・推進できる防災士など、普段から防災に関する知識・技術を持つリーダーの育成が大事。

○災害時に自治会が組織だった活動を行うためには、まず自治会員の安全確保が大前提であることから、室内の安全対策を進め、地域に広げていくことが大切。

改めて防災について考えさせられた視察でした。



伊丹市と意見交換

● 石巻市を訪問して

震災以後、豊橋市から石巻市へ派遣職員として赴任している宇佐美さんから説明を受けました。

最初に、被災した小学校や慰霊碑のある場所を訪れました。被災した門脇小学校は3階建てでしたが、そのはるか上まで津波が来たとのことでした。児童や先生は、裏山への急な石段を駆けのぼり、全員難をのがれました。その後、門脇町・南浜町地区一帯はすっかり炎に包まれ、13日の夕方まで燃え続けたとのことでした。



「語り部ガイド」による案内

で燃え続けたとのことでした。海岸一帯は、ガレキは片づけられていましたが、平地となっており、以前は民家であったであろうコンクリートの土台の中や、あたり一面に夏草が生い茂っている惨状は、何とも言いようがありませんでした。

● 南三陸町を訪問して

南三陸町では、津波を経験した「語り部ガイド」の方の、経験をもとにした懇切丁寧、時には心情に訴える説明を聞き、参加者全員納得し、頷くばかりでした。

テレビでも有名になった南三陸町の防災対策庁舎のある場所に行きました。3階建ての鉄骨ビルが無残に鉄骨だけ残っていました。ここでも過去の経験（チリ沖地震の時の津波、約6m）から、津波が来たら2・3階へ逃げればよいと町長はじめ職員は考えていました。しかし、津波は防災ビルの3階を遥かに超える高さで襲い、職員40名を超える犠牲者を出しました。

最後までマイクをにぎり「津波が来ます。早く逃げて下さい。」と言い続けた女性職員もなくなりました。防災庁舎の周りは震災以前、市街地であったことは容易に想像できましたが、今は一面の平坦地で、復興造成中のダンブカーが何台も通っていました。

市民総参加で盛り上がる 豊橋まつり 60周年

豊橋まつりは今年、第60回の節目を迎え、名称も「ええじゃないか豊橋まつり」として生まれ変わりました。
今年もクイーンが校区の代表として素晴らしい活躍をしました。



オープニングステージ(豊橋球場)



自己紹介(豊橋球場)



市民総踊り(駅前大通)



パレカ(広小路)

■オープニングで校区の
特徴をアピールも

初日の豊橋球場でのオープニングセレモニーは、まつり日和の中、セリだしの舞台にさっそうと登場したクイーン。自己紹介では、校区の特徴もしっかりと紹介。

■若さ溢れるダンスで
まつり盛り上げ

市民総踊り&パレカでは、9月から毎週日曜日にダンス練習をしてきた成果が十分に発揮され、まつりを盛り上げました。



つつじ荘慰問(飯村町)

老人ホームを訪問し、ダンスを披露しました。クイーンはあふれる笑顔を入所者に届けました。

■豊橋まつりを盛り上げた
クイーンと自治会活動に
充実感

まつり解散式では、佐原市長・鈴木自治連合会長からお礼の言葉がありクイーンも感激していました。クイーンの「踊りの練習が大変だったが、クイーンになって良かった」という言葉に自治会活動の意義と充実感を感じる節目の豊橋まつりでした。



記念撮影(公会堂)

クイーン衣装提供：三菱レイヨン株式会社豊橋事業所

石巻山・三ツ口池 クリーン作戦 石巻校区

石巻校区は、霊山「石巻山」の山麓に位置し、豊かな自然に恵まれています。しかしながら、この自然も自然災害や人的災害に見舞われています。ことに、紙類やペットボトル、不法投棄物などは後を絶たない状況です。

こうした現実を踏まえ、平成10年に校区自治会が音頭をとり、小学校の児童とその保護者が中心となって始まったのが「三ツ口池クリーン作戦」であります。そして、平成21年に「石巻山・三ツ口池クリーン作戦」と名称を変更し、参加者や対象地域を拡大してきました。

平成26年度は、11月16日に、小学生・中学生・教職員・保護者・校区民・自治会役員・評議員など総勢50名程の皆様との協力のもと、三ツ口池周辺、三ツ口池広場（現在整備中）のゴミ拾い、不法投棄物の除去、草取り、草刈り、樹木の伐採、植樹などを行いました。

小学生は、現在「郷土学習」の市研究指定を受けていることもあり、三ツ口池周辺のゴミ拾い、中学生は広場の雑草を見事に退治してくれました。



三ツ口池広場にて

防災訓練 二川南校区

6月7日二川南小学校にて、校区の合同防災訓練を実施しました。小学校の授業参観日と兼ねて開催したため、参加者は先生及び児童600名と、保護者及び自治会関係者600名の総勢1200名となりました。今回、初めて児童を対象にした合同訓練であることや参加者が多いという問題点を抱え計画を進めました。大混乱を心配し、先生方による児童の誘導を最優先として、消防団・校区防災リーダー・南消防署二川出張所とも綿密に協議を行い実施しました。児童全員に最後練習を終りました。

反省点はいろいろ出ましたが、子どもたちの感想文や保護者の「子どもたちのこの経験は、大人になっても忘れることなく、いつまでも身につけていく。だから一度や二度でやめないうでほしい。」という多くの意見に私たちは救われました。

平成27年度も反省点を訓練に生かし、小学校との合同で進めていきたいと思っています。



災害用トイレ



担架を体験



消火器を体験

平成26年度 豊橋市自治連合会 事業報告

重点推進事項

- 一 明日の豊かなまちづくり
 - ◆市民館を拠点に地域のコミュニティ活動の実施など
- 二 安全で明るい市民生活を築くまちづくり
 - ◆交通安全市民運動の推進
 - ◆防犯活動の推進
- 三 青少年が健康で明るく育つまちづくり
 - ◆青少年健全育成会を中心にパトロールの実施
- 四 非行防止活動と明るい家庭づくりの実践
 - ◆地震等災害から市民を守るまちづくり
 - ◆危機管理体制の強化
 - ◆自主防災会の充実と防災意識の高揚など（総合防災訓練への参加など）
- 五 美しく住みよい緑のまちづくり
 - ◆530運動および愛市憲章の実践と啓発など
- 六 快適な暮らしを目指すまちづくり
 - ◆資源 エネルギーを大切にするための自主的な活動の推進など

一般推進事項

- 一 受託業務の実施
 - ◆「広報とよはし」配布等市の業務について業務委託契約を締結
- 二 豊橋まつりへの参加
 - ◆各校区自治会よりクイーンを選出し、イベントなどへ参加
- 三 共同募金、歳末たすけあい運動などへの協力
- 四 地域で献血運動への協力など

特別推進事項

- 一 自治会活動の充実と活性化の促進
- 二 市民協働によるまちづくりの推進

★住みよい暮らしていける計画

住みよい暮らしづくり計画とは、小学校区をひとつの単位として、そこに暮らす人たちが中心となり、自分のまちをより暮らしやすいまちにするために、「何が必要か」「何をしたいのか」ということを計画書にまとめたものです。

これまでに、モデル校区として先行して取り組んだ新川、吉田方、杉山、下地の4校区と、岩田校区で計画づくりに取り組んできました。

また、計画書にまとめるだけでなく、校区からの情報発信を強化するためにホームページの作成や市民館を活用したまちづくりを計画するなど、校区の実状に合わせたテーマを特化した取り組みも岩田、つじが丘、牛川、鷹丘、西郷、前芝校区で取り組んでいます。

今年度は計画書づくりに松山、野依校区が取り組みを始めました。

この計画について、「うちの校区でも勉強してみよう」という校区は出前講座を市役所が行なっていますので、市民協働推進課へお問い合わせください。

なお、これまでに作成された計画書など詳しくは、豊橋市「住みよい」でインターネット検索してください。

編集後記

今年度も国内では色々な出来事がありました。改めて地域の絆の大切さを知らされました。自治連合会も地域の安全・安心に取り組みでまいます。皆様の自治会への積極的な参加をお待ちしています。

【編集委員】

三井新太郎、笹野 壽
徳島 結城、山本 和男
山本 隼彦